



子育て世代のお母さん支援機構

ママのゆりかご

Since 2017



はじめに

「日本における子育ての悩み」において、育児の際に直面する悩みや楽しみ方にフォーカスを当てております。

日本は、全世界で第3位に位置づけする先進国である一方で、出産率の低さに加え長寿国という特徴から近年「少子高齢化」が社会問題として提起されています。

現在の日本の出生率、育児環境は世界的にみても先進国と呼ばれるアメリカや中国以上に深刻な問題とされています。

2021年の国内出生率は1.30。この数字は6年連続で低下しているという結果に加え、出生数は過去最少となっています。21年の1.30は前年より0.03ポイント低下し、過去4番目に低く、1.5未満が「超少子化」水準で、1.3未満はさらに深刻な状態とされています。

また、結婚の減少も拍車をかけたと見られており、21年は50万1116組と戦後最少。コロナ渦前の19年比で10万組近く減ったという結果が出ています。当然のことながら婚姻数の減少は出生数にも直結する問題であり、こうした現象はコロナ下における行動制限の影響が出会いの減少に結びついているのではないかとされています。

現在、少子高齢化に歯止めをかけるとした場合、日本に存在する全ての女性1人あたり。平均で2.3人の出生をしなければ打開することは出来ないというデータが発表されていますが、その中には出産の対象となれない年齢の女性も含まれており、実際にこの状況を打開するためには、更なる出生数が必要になります。

現代では、結婚そのものを求めず、社会に於いて職に生きがいを感じる女性も増えており、今後益々の出生率の低下が懸念されているのが実情です。

しかし、これを解決するためには、まだまだ様々な課題や障壁が存在するのも事実です。多くの若者をはじめ、結婚を考える世代が懸念、改善点として挙げる項目として、結婚後の職の在り方について、仕事と家庭の両立の難しさ、育児の方法や悩みごとの辛さなどがあります。

こうした声に耳を傾け、共に解決を目指していく。自身のやりたいことを制限せず、楽しく家庭を築く方法、そして障壁に直面したときにアドバイスや後押しをしてくれる。こうした活動が微力ながらも少子化に歯止めをかける一端になると考えています。

A close-up photograph of a baby's face and upper body. The baby has dark hair and is looking slightly to the right. They are wearing a white short-sleeved top with a pattern of small red and purple dots. A person's hands are visible, gently holding the baby's arms. The background is a soft, out-of-focus mix of light blue and white, suggesting an outdoor setting. A pink rectangular box is overlaid on the left side of the image, containing Japanese text.

ママのゆりかごにかけける想い

代表者のプロフィールとご挨拶

皆川めぐみ 昭和56年生まれ 41歳

大分県臼杵市出身。会社員の父とパートに出ていた母のもとで一人っ子として生まれました。現在は大分市に在住しています。

私は現在、ハタチになる息子と、17歳と8歳それぞれ女の子の3人を育てるシングルマザーとして暮らしています。本来は、今年19歳になる息子が居るのですが、残念なことにある事情により命を落としてしまいました...

当時働いていた職場のお客様として出会った方と、20歳の時に結婚。ですが、夫婦間で歩みを共にしながらも、将来の方向性の相違が生じたため、平成20年3月に離婚することとなり、現在に至ります。

21歳で初めて出産を経験し、子宝に恵まれた喜びを感じていました。しかし、その反面で「子育てのやり方」が分からず自分なりに子供との向き合い方や家庭の築き方など、試行錯誤の毎日が続きました。

毎日新しい発見がありながらも、上手くいかないことが多く...最終的には育児ノイローゼの症状を発するなど苦難の日々を過ごしていました。ですが、第二子 第三子を授かり自身も成長する中で子育てを経験した結果、「こどもを育てる」ということに於いてあらゆる知識や経験をすることが出来、「育てる」という思考から「育む」という形へと変わって行きました。

そんな日々を送っていたある日、「もしかしたら世の中には、以前の私と同じ様に悩みを抱え、苦しんでいる母親がいるのではないだろうか?」「育児の難しさや家庭の築き方に不安を感じ、前に進めないでいる女性がいるんじゃないか?」そんな想いが頭をよぎり、平成29年4月に【[NPO支援団体 ママのゆりかご](#)】を設立致しました。

設立か5年が経過し、これまでにおよそ500組の母子の相談を受け、悩み解決に取り組んできました。

例えば、初心者ママさんには赤ちゃんの母乳が足りているのか。1度の食事と与えるミルクの適正量はどのくらいなのか...や、初めての離乳食の作り方や食べさせ方についてなど子育ての基本となる部分であったり、その他にも子供が萎縮しない叱り方や、お子さんの意思を汲み取ったしつけ方。初めてのトイレトレーニングなど育児に関すること全般においてお悩み解決に取り組んできました。

その他にも夫婦間の問題では、夫からのDV被害や身体的・精神的な虐待による相談。解決策の提案など家庭のトラブル解決などにも、相談者と真摯に向き合い、女性が母親であることを一番に考え現在も活動をすすめています。

現在では、地元企業「和高組」が発信するYoutubeチャンネル【WAの対談 大分の仕事対談チャンネル】さんへの出演をはじめ、独自でSNSを活用されている方々のチャンネルにゲストで出演させていただいたり、大阪のラジオ番組に出演させていただいたり、各種メディアへの出演依頼も増えてきました。

今後は、大分県内はもちろんのこと、全国のママさんたちのお悩み解決に向けて、各県に拠点をおいていくことを目標とし、日々悩めるお母さんたちに「[安心して子育てができる環境](#)」を提供できるお手伝いをしていきたいと考えています。

育児における課題



子どもの虐待増加

現代の日本社会において、育児をする親を取り巻く環境は、他の諸外国に比べても非常に多くの問題があると考えています。仕事と家庭の両立における休暇の取り方や周囲の理解。子育てを行う上での所得の低下や景気の低迷による解雇、離職問題。その他にも子育て支援の金銭的補助の脆弱さや親としての未成熟さから生まれる乳幼児への虐待など、非常に多くの課題があるにもかかわらず、それらを改善するための施作や機関は一向に増加していません。

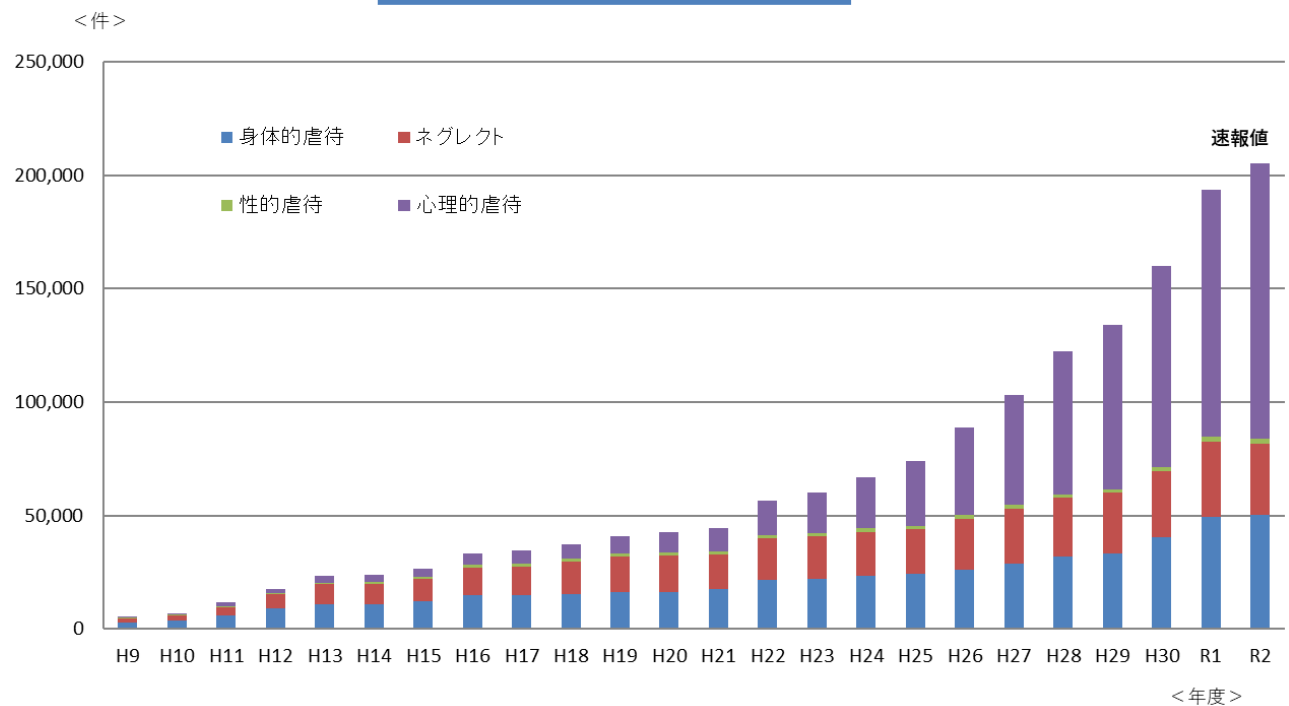
ママのゆりかごでは、こうした山積する問題の中でも、【虐待問題】を非常に重く捉えています。

右記のグラフは『子ども虐待防止 オレンジ運動』さんがとった児童相談所における児童虐待相談の件数を示したのになります。

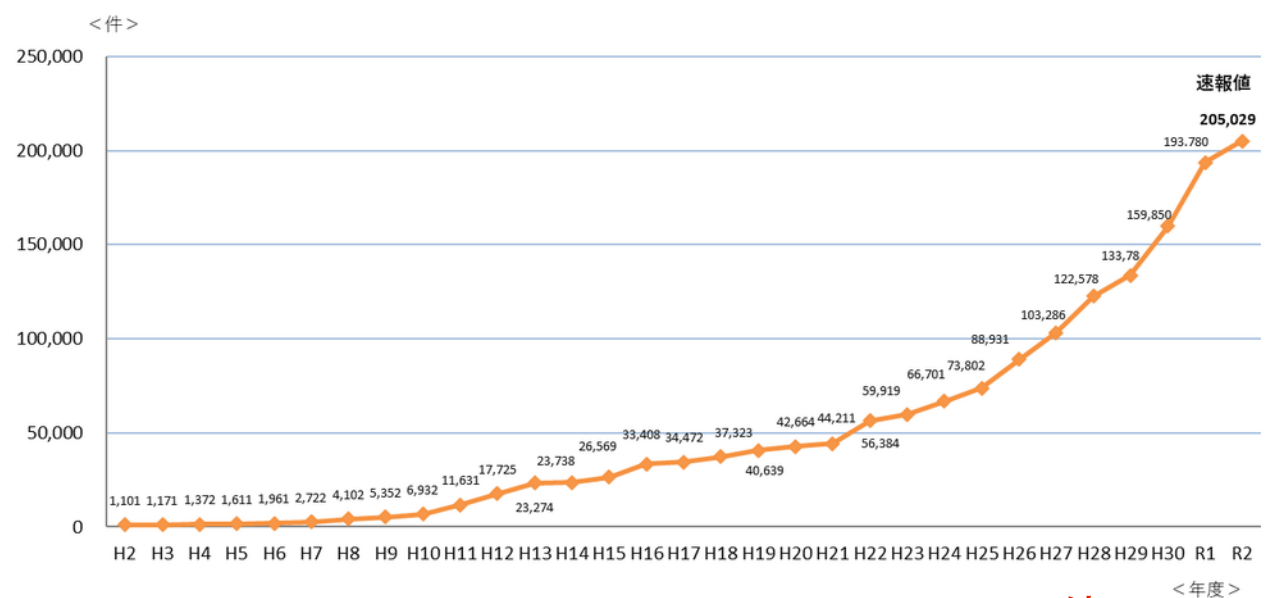
表を見てもお分かりの様に、**僅か30年間でおよそ186倍まで増加**しています。

この数字は、日本の幼児数1493万人（2021年）で考えると、およそ70人に1人が虐待を受けている可能性があることを指しています。

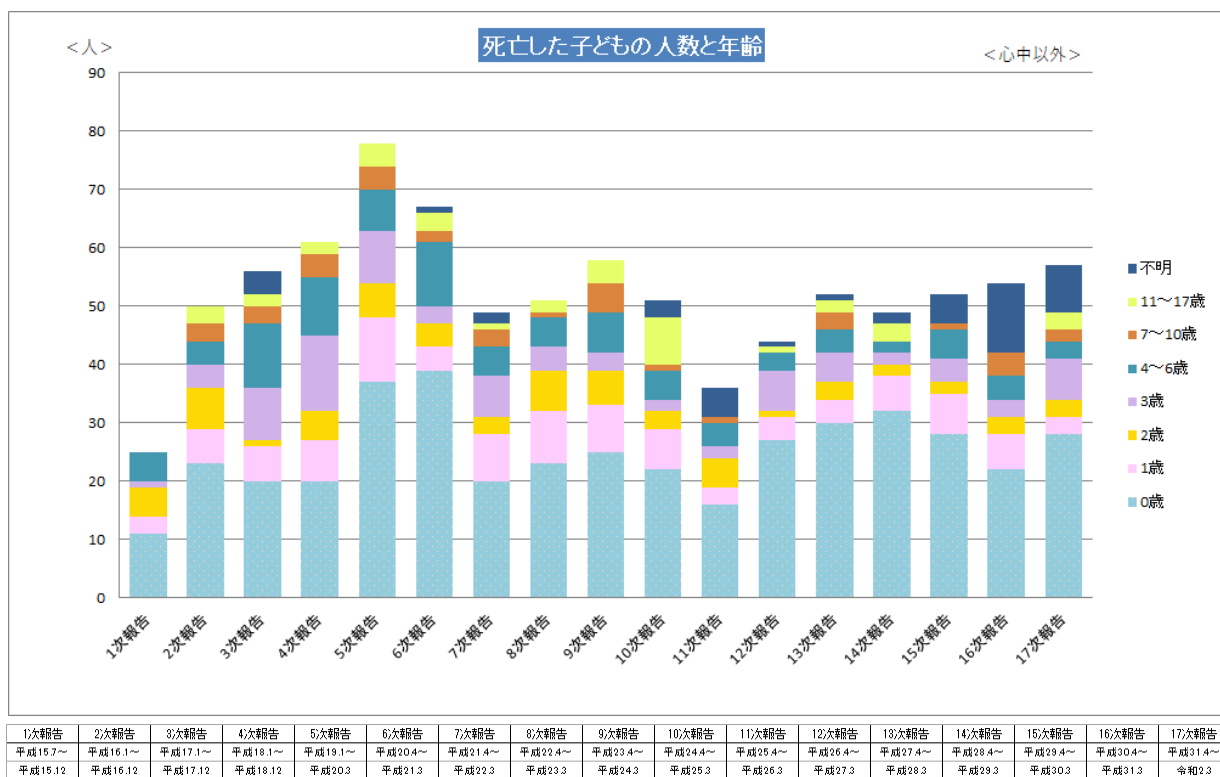
児童相談所における児童虐待相談対応の内容



児童相談所における児童虐待相談対応件数



平成2年から令和2年までの30年間で **186.2倍**



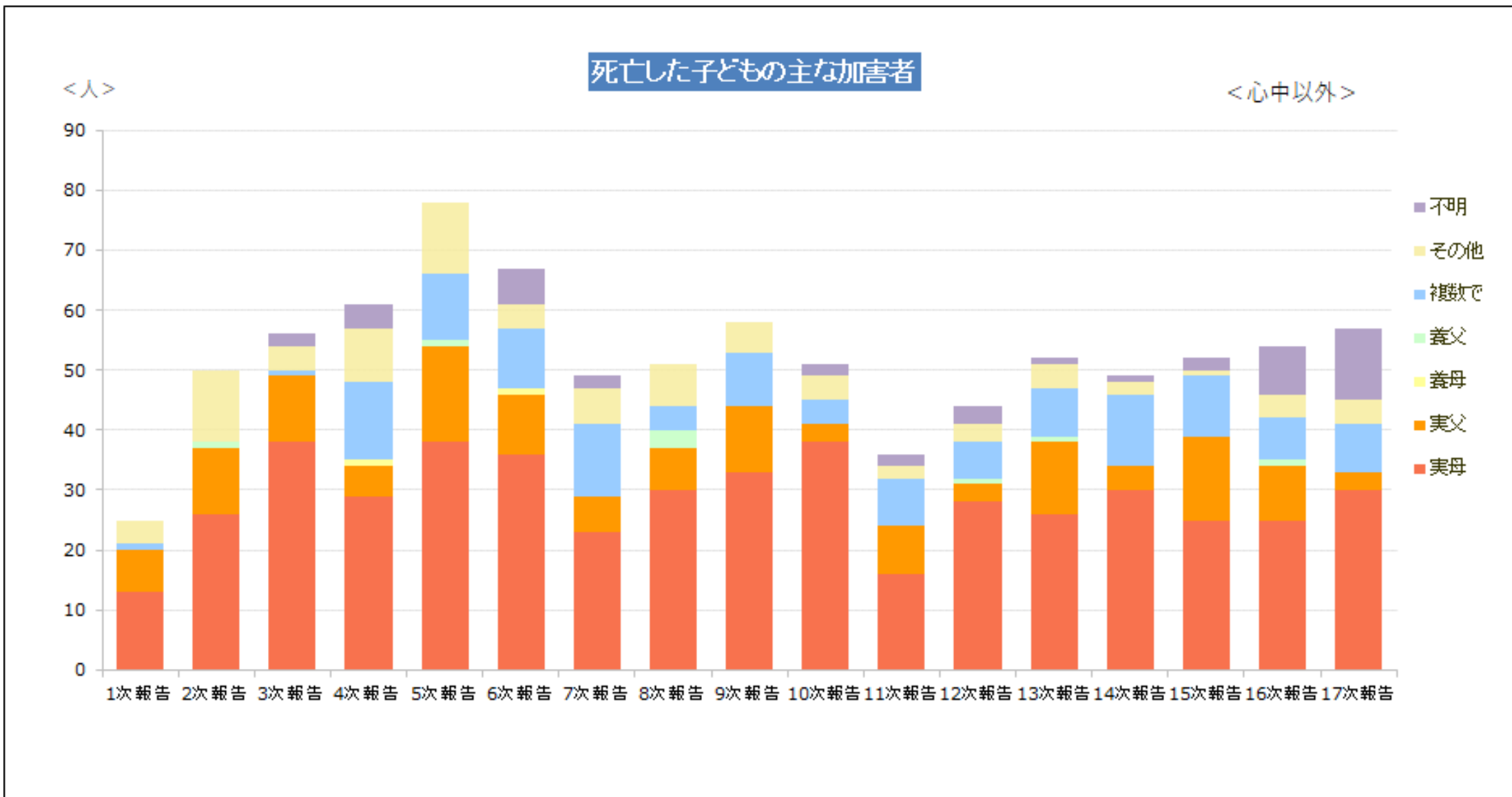
また、虐待による死亡事例も増加しており、現在では年間50件を超え、**実に1週間に1人の子どもが命を落としている**という統計が発表されています。

なお、左記のグラフを見てもわかる様に、虐待により志望している子どもの大半は0歳児であり、乳児の時期に多く発生しています。続いて1~3歳の幼児、4~6歳の児童。**未就学児童が50%以上**となっているのです。

これは、実父母による育児へのストレスや、親としての心構え、精神的未熟さ、そして育児の知識欠如などが大きな原因であるといえます。

その根拠となるグラフが次の頁になります

虐待の加害者は親



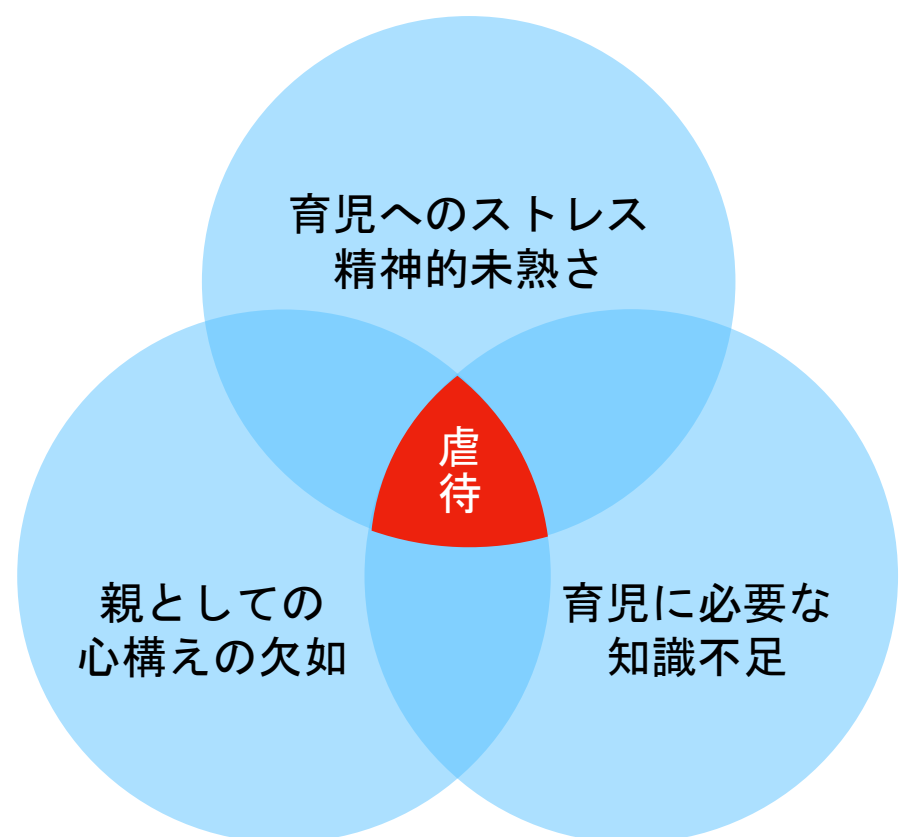
上記の表をご覧くださいと、ネグレクト。つまりは死亡した子供の主な加害者は実の母親や父親であることがお解りいただけると思います。
では『どうしてこういった行いが増えるのか?』ということを考えてみます。

虐待が増加する理由

ママのゆりかごでは、虐待が増加する理由として前頁でも挙げた右記の内容が大きく影響をしているものと考えています。
また、そうした原因を取り除く、または解消する機関が存在しないことも大きな要因ではないかと感じております。

実際、昔は母から子へ「子供の育て方」を伝承していくものであった訳ですが、昨今はこうした環境も減少傾向にあり、また若年層での出産件数なども年々増えてきているのが実情です。こうした背景の中「子どもを産んではみたものの、どうやって育てれば良いのかわからない」「こんな時どうしたらいいの?」「どこに相談すれば良いの?」という声が当団体に多く寄せられています。

悩みを相談する相手が居ない。 解決策を提示してくれる機関が無い。
孤独感や不安、ストレスの蓄積など様々な重圧や要因に心を蝕まれ、理性という籠が外れてしまった結果、こうした居た堪れない事件が発生してしまうのではないのでしょうか?



マルシェを開催する理由



場所を提供する方と参加される方をマッチング

マルシェを開催する理由の一つとして『マッチング』があります。

これには幾つかの形がありますが、過去に行ってきた一例として、参拝客が年々減少している神社さんがありました。高台に建つ境内からは、眼下に広がる素敵な町並みを見ることが出来るのですが、高台にあるからこそ参拝に訪れる方が減っているのだと悩んでいらっしゃいました。

そこで、当団体ではこちらの境内を利用してマルシェを開催させていただくことをご提案させて頂いたのです。

宮司さんは「それで人が集まり、神社に活気が戻るなら...」とのことでご了承いただき、早速企画の方を進めさせていただきました。

そして、このマルシェに参加される方々は、大分県内で活動するアーティストさんや子供神楽など、コロナ渦において発表の場が減少してしまった方々。イベントの中止や人々の出控えにより売上げが大幅に減少してしまった飲食店様やキッチンカーの皆さんにお声がけをさせていただきました。

これをキッカケに神社には、これまで立ち入ることが無かった若年層をはじめ、延べ300人以上の人にご来場いただくことが出来ました。

神社の宮司さんからは「こんなに多くの人に来てくれたのは、いつぶりだろうか...」とお声をいただき、参加者さまからは「久しぶりに笑顔で活動することが出来ました!」と仰っていただくことが出来ました。

私たちがマルシェを開催するのは、単に『お金儲け』のためではなく、こうした悩みと悩みをつなぎ合わせることで、喜びを生み出すことだと考えています。



赤猫社 福まねき

第3回 **赤猫マルシェ**

『良福』特別御朱印受付!!
奉納神楽『豊饒神楽』開催

良い 福の日
4/29 (土) 10:00 ~ 16:00
会場: 臼杵福良天満宮 (臼杵市福良211) 駐車場: 福良ヶ丘小学校

フードブース

- ふじや 回転焼き・焼き芋
- Ruban クレープ
- ママのゆりかご 食べる米ぬか米粉蒸しパン
- chonsa工房 手作り菓子・カップ入カラフル綿菓子
- Ken'sBASE グルテンフリーチーズケーキ 米粉焼き菓子
- 本田家 唐揚げ
- 白雪姫のりんご館 りんご飴
- 我ったあ島ぬ弁当や 沖縄料理
- ベジタリアン料理のお弁当屋さん 園(まる) お弁当他

雑貨ブース

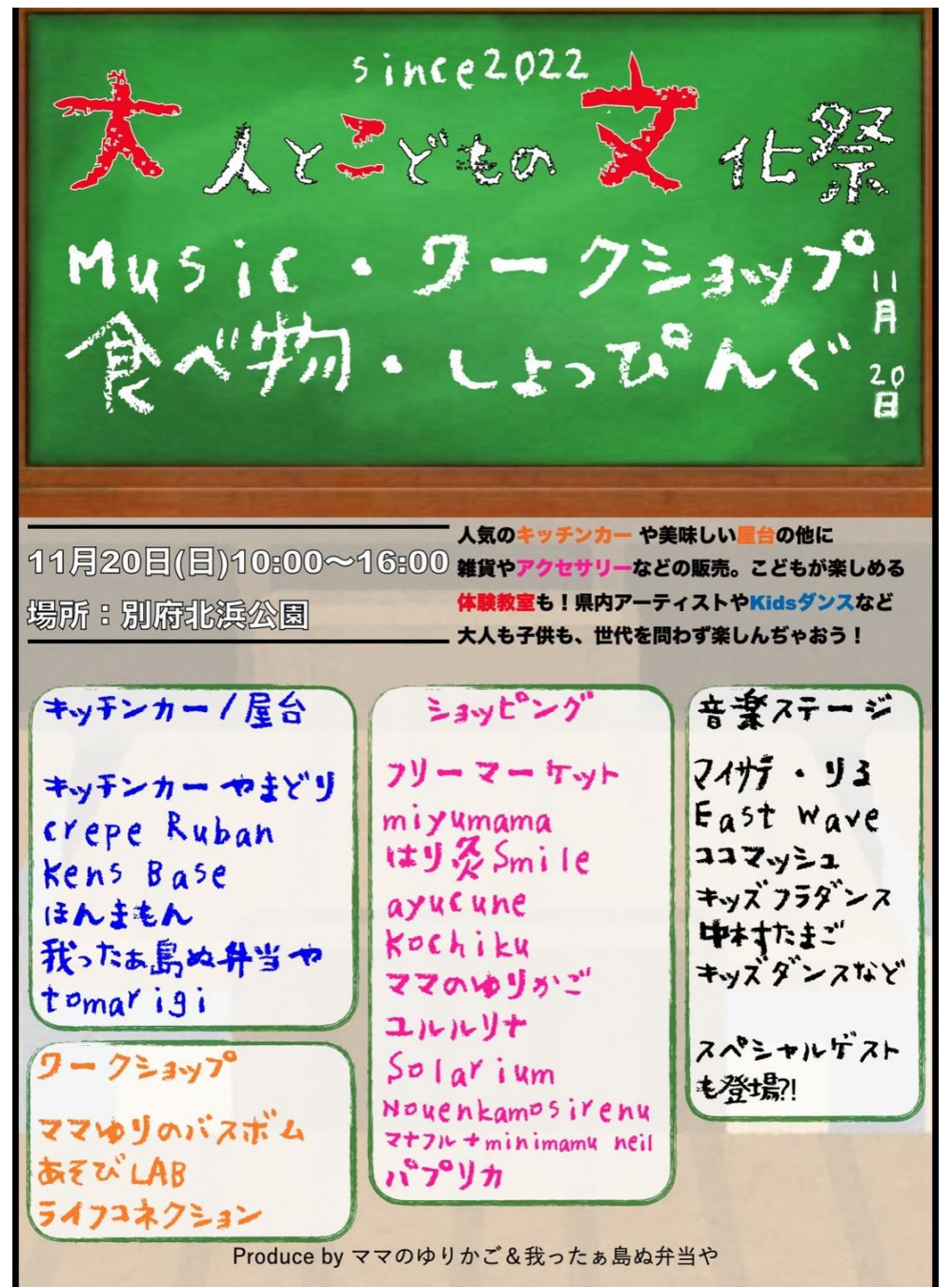
- miyu-mama ユルルリナ
- kumachan.made
- Ko-Chiku
- aKine
- Onedesign

癒しブース

- 千年堂 美容鍼体験 花粉症改善
- はり灸smileすみれ お灸バイキング・天然調味料他
- BeLL flower アロマクラフト他

アコースティックLive
・中村たまご・マイサテ
・マジシャン SHOCO
フコク生命赤ちゃんクラブ 風船プレゼント

お問い合わせはこちら
福良天満宮 0972-63-2739 企画: ママのゆりかご 担当: 飯川 (080-3969-7459) 協賛: 株式会社阿部エンタープライズ



since 2022

大人とこどもの文化祭

Music・ワークショップ
食べ物・しょっぴんぐ

11月20日

11月20日(日)10:00~16:00
場所: 別府北浜公園

人気のキッチンカー や美味しい屋台の他に
雑貨やアクセサリーなどの販売。子どもが楽しめる
体験教室も! 県内アーティストやKidsダンスなど
大人も子供も、世代を問わず楽しんごう!

キッチンカー/屋台

- キッチンカー やまどり crepe Ruban
- Kens Base
- ほんまもん
- 我ったあ島ぬ弁当や tomarigi

ワークショップ

- ママゆりのバスボム
- あそびLAB
- ライブコネクション

ショップing

- フリーマーケット
- miyumama
- はり灸 Smile
- ayucune
- Kochiku
- ママのゆりかご
- ユルルリナ
- Solarium
- Nouenkamosirenu
- マ+フル+minimam+neil
- パプリカ

音楽ステージ

- マイガ・リズ
- East Wave
- ユコマツシユ
- キッズフラダンス
- 中村たまご
- キッズダンスなど
- スペシャルゲストも登場!

Produce by ママのゆりかご&我ったあ島ぬ弁当や

スタッフの事業応援

現在、ママのゆりかごは主に個人事業主の方々によるボランティアによって成り立っております。

日本では「ボランティア」という言葉について【生活に余力のある人】であったり【専業主婦など仕事をしていない人の活動】という認識がひろがっているのですが、本来は【活動意義に賛同した人が支援をする】という行為であり、決して金銭的に裕福であることが直結する訳ではないのです。

現時点で、ママのゆりかごは営利団体ではない上、マルシェ開催による売上等は全てセミナー会場費用などに使用しているためボランティアの方々に対しては御給金等も発生しておりません。

あくまでも『当団体の活動に賛同』という支援スタッフの温かい心によって成り立っております。

しかしながら、ボランティアの皆様にも家庭や家族があり、守るべきものがあります。

そこで、ママのゆりかごでは、こうしたご支援いただける方々の事業をサポートすることで、活動を継続していただける様、私たちが開催するマルシェでは、**出店業者様として、物品の販売やサービスの提供**を行っていただいております。

ボランティアスタッフは、マルシェでの収入を通じて家計の負担を軽減し、自身の事業を展開することで、活動を継続していくことが出来ております。

【誰かのために...】という思いを持っているスタッフだからこそ、私は【スタッフのために...】という思いを持って、マルシェを開催する理由の一端と考えております。



クリエイトM（筆跡鑑定士さん）



ちやびのパン工房（パン屋さん）



Ken's Base（チーズケーキ専門店さん）



Bell Flower（アロマトリートメント屋さん）

A woman in a red t-shirt and blue jeans is walking on a paved surface, holding the hand of a young child. The child is wearing a vibrant, multi-colored striped raincoat and colorful polka-dot boots. The background is slightly blurred, showing other people and structures in the distance.

ママのゆりがごが想う夢

未成年/若年層の性教育

ママのゆりかごの将来的な目標の1つに『未成年/若年層への正しい性の教育』があります。近年、若いうちに妊娠をしてしまい、いわゆる【デキ婚】を余儀なくされてしまう若者が増えているのが実情です。

右記の表は、厚生労働省が発表する出生数に対して、未婚の状態での第一子を出生した年齢別による割合を示しています。

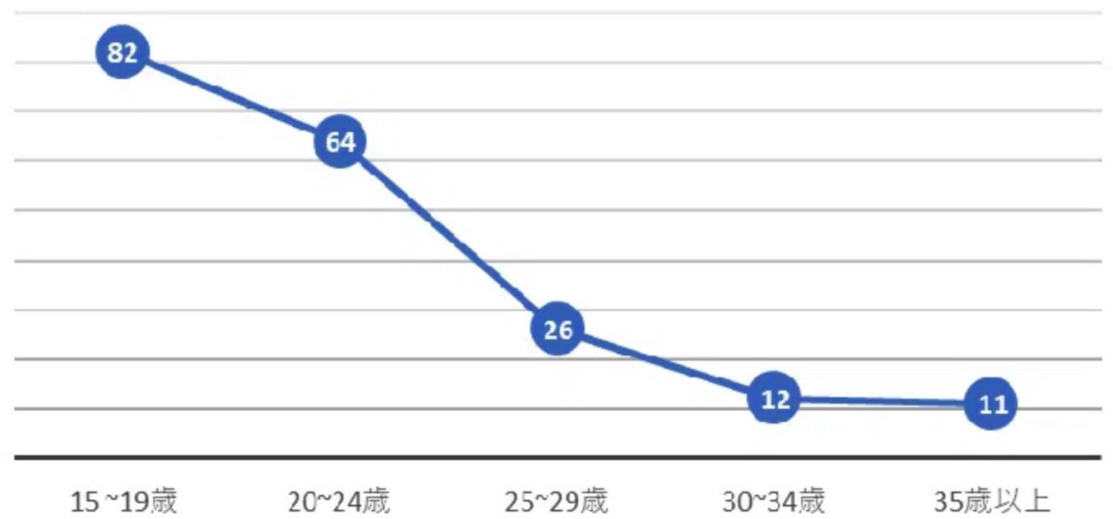
この図からも分かる様に、未婚のまま妊娠をしてしまった割合を多くが未成年によるものです。

もちろん若くして子供を産むことが決して悪いわけではありません。しかしながら年齢が低ければ、そのぶん育児に対する知識が足りていなかったり、家庭を持つには十分な生活費を得ることが難しいということは否めません。

『命を授かる』ということに対してのキチンとした心構えはもちろん【自分たちの意図としない妊娠】を避けるためにも性に対する正しい考え方を身につけておくべきだと考えています。

また、こうした事前知識を身につけておくことで、不用意な妊娠を避けることはもちろん、その後における生活困窮者

結婚前に妊娠していた母親の割合



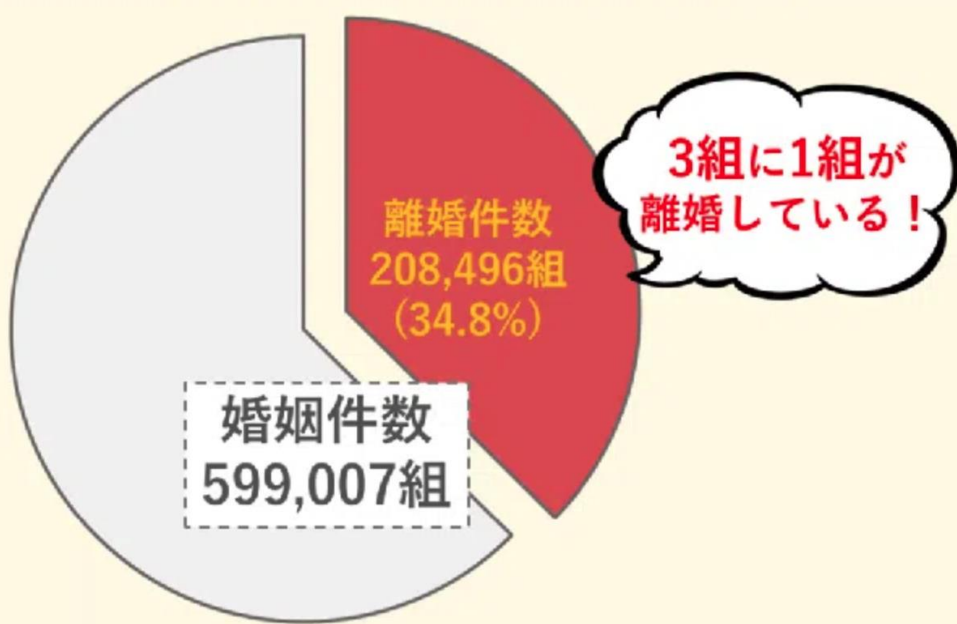
厚生労働省ホームページ参照

婚姻者が離婚に至る理由

	男性	件数(男性)	女性	件数(女性)
1位	性格が合わない	11,030	性格が合わない	18,846
2位	精神的に虐待する	3,626	生活費を渡さない	13,820
3位	その他	3,545	精神的に虐待する	12,093

やシングルマザー、育児放棄など様々な問題を事前に回避できる様になるのではないのでしょうか？正しい知識と性交渉に対する心構えが、延いては幸せな家庭を作るキッカケになると考えています。

2019年の全国離婚率



左記の表は、2019年の全国の離婚率を現したものです。よく『夫婦の3組に1組は離婚する』と言われていますが、これは毎年の婚姻件数に対して離婚件数がちょうど1/3程度になるからです。

実際2019年の割合で言うと、離婚件数の割合が34.8%となっており、概ね1/3というのが間違いではないということがご理解いただけたと思います。

こうした離婚の背景には、上図で示した理由があげられますが、男女共に挙げられている【精神的に虐待をする】はとても深刻な問題です。

もちろん、この内容には容姿に対する文句や、喧嘩の

途中で不意に出てしまった暴言なども含まれていますが、金銭的な困窮を理由としたものや、育児に関することなども少なくはありません。

そうした理由は、やがては肉体的な虐待へとエスカレートする危険性を多く含んでいるため『離婚or虐待』というどちらに転んでも子供にとっては良い結果へつながることはありません。だからこそ、しっかりとした教育を受ける機会を作り、結婚や妊娠、育児への正しい知識を伝えていきたいのです。

今後は、県内外問わず活動の場を広げ、一人でも多くの若者たちへこうした思いも含めて、伝えていける環境を創造していきます。

救済シェルターの設立

近年では、DVシェルターという名前で知られていますが、いわゆる**駆け込み寺**のように、弱者を救済しようとする活動の歴史はとても古いのです。

現在のシェルターは、大きく分けて**行政が運営する公的シェルター**と**民間団体などが運営する民間シェルター**があります。

公的な施設は**売春防止法**に基づき各都道府県に設置された婦人相談所に併設される一時保護所。DV防止法に基づき、民間シェルターや母子生活支援施設に委託される場合もあります。

ですが、公的施設の場合は決して居心地が良いとは言い切れず、過去に公的シェルターを利用したことのある利用者に聞いてみると、テレビ付きの6畳ひと間で、洗濯スペース、トイレ、風呂共同という条件の施設でした。

外部への情報漏洩や逃走を防ぐため携帯電話や金銭は没収、外出は1日に1時間だけ。

数百円の母子加算手当で子どものおむつ、化粧品、洗濯に使う洗剤を賄わなければならなかったと仰っていました。

一時入居者が抗議をすると
「税金で助けられているのに感謝が足りない」
「言うことを聞けないなら免責誓約書を書いて出ていけ」
などと**高圧的な態度を取る職員もいる**といえます。

このような実態が生まれる背景には相談員が非正規雇用で待遇も悪い中でDVや虐待といった深刻な事案を扱うことが理由であるとされています。

研修制度の整備の不十分さ、数年単位での異動により経験が蓄積されないこと、専門的な知識を持たない相談員を配置するなど相談員の質の問題なども、業界の抱える問題だと考えます

私は、こうした劣悪な環境が本当に【救済】と呼べるのか？と長年疑問視してきました。そして、時を重ねても日本の公的制度、施設には変化が無い。それならば...と自身で設立を夢見る様になりました。

私の思い描くシェルターは、単にDVなどの被害者や生活困窮者を匿う施設ではなく、**どの様にしたら解決出来るのか、最善の方法は何なのか？**を共に向き合い、**考えそして歩いていくことの出来る真の救済活動**が出来るものであるべきだと考えています

もちろん、こうした問題に一つ一つ向き合うことは、スタッフにとっても肉体的にも誠意心的にも大きな負担になると思います

しかし、誰かが手を差し伸べることで、それが一時的なものではなく解決へと歩みを進めることが出来るなら...逆に誰もしなければ、その当事者はずっと不安と恐怖を心に生きていかなければならなくなってしまう。それならば私が全力で向き合い、**解決へと共に歩いていきたい**と思います。

もちろん、私一人の力ではこうした活動にも限界があります。

だからこそ私の考えや、当団体の活動に共感・賛同してくれるスタッフと一緒に頑張っていきたいのです。

会社とは、経営者がどんなに優れていても決して成長することは出来ない。そこに「志を共にする熱いスタッフ」がいるからこそ素晴らしいものが生み出せるのです。それはNPOと言えど同じこと。

こうした環境を創り、継続することで子育てに悩む親はもちろん、DV被害者、ネグリストの根絶。そして幸せな子育て環境を提供していきたいと考えています。



全国的な支援への拡大

これまで私の想いや活動の目的などを多く語ってきましたが、ママのゆりかごは今後、大分県だけでなく全国に活動の場を広げていきたいと願っています。

2023年3月。愛知県に「ママのゆりかご名古屋支部」を設立し、現在は大分県を含む2拠点での活動を行っています。最終的には、47都道府県全てに拠点を置き、教育、保護、自立支援と子育てを行う親御さんはもちろん、現在成長しているお子さんや、これからの日本を担う新たな命のために精力的に活動をしていくことを目的としています。

私自身、現在も含め他県で活動されている同様の支援団体にコンタクトを試みているのですが、インターネットなどには情報があるものの、その多くが志半ばで休眠、または消滅してしまっています。

現地で活動していたボランティアスタッフに話を聞くと、やはり

- ・自身の生活を守ることが出来なくなりボランティアを継続することが出来ない。
- ・収入を確保できないため、二足の草鞋では体力的にキツイという声も多く聞こえてきました。

ママのゆりかごを継続し、社会のため、人々のために活動していくためには団体そのものがスタッフを守るのものであることも重要な課題だと思っています。

セミナーや自立支援を行う。定期的にマルシェを開催し、スタッフの生活の糧を生み出す。そして、夢や目標のために一丸となって頑張る！こうした理念を持って、今後も活動の場を広げていけたらと思います。

最後に・・・

当団体は、皆様方のご支援、ご協力もとで成り立っております。ほんの少しでも私たちの活動に共感、ご賛同いただけましたらぜひともお声がけ頂きますと嬉しく思います。

活動の期間など、まだまだ若輩者ではありますが、活動にかける想いや熱意は誰にも負けないものであると自負しています。

今後ともママのゆりかごが、未来永劫続けていけます様、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



YouTube出演

WAの対談

https://youtu.be/7hk5Kcq3e_8

IZAKAYAHOTAKON

<https://youtu.be/Xyy0gW17zkc>

ラジオ出演

夢のたねラジオ よっしいキヨマツあなたの未来



MAMANOYURIKAGO



皆川 めぐみ

育児するママを育母する団体

ママのゆりかご